

目 指 す 学 校 像	○ 児童が生き生きと学ぶ学校	○ 安心・安全が保障される学校
	○ 学校・家庭・地域が連携・協働する学校	○ 職員が常に学び続け、チームワークがある学校

重 点 目 標	1 学びを楽しみ、共に高め合う子の育成（基礎学力向上と体力向上） 2 安全・安心な教育環境を整え、組織的な教育活動の展開（安全管理 教育相談体制の充実） 3 コミュニティ・スクール事業の推進、地域一体となって歩む連携・協働の強化と活性化 4 専門・得意分野で力が発揮できる体制づくりと、学び合い、高め合いによる資質向上
---------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価				
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国・さいたま市平均より大きく下回り、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」共に課題がある。1月の市学調査では、前年度よりも向上傾向にあり、ドリル学習やICT活用などによる学習指導の効果が表れてきている。 ○ノートで練習し、効率的にタブレットを活用して習熟を図っている。 ＜課題＞ ○基礎学力向上のため、基礎的・基本的な「知識・技能」の習得に重点を置き、「思考力・判断力・表現力」につなげていく必要がある。 ○定着度向上のため、家庭との連携を図り、家庭学習にも主体的に取り組めるようにしていく。 ○基礎体力低下が起因する健康保持能力・運動能力の低下を防ぐとともに、体力向上を図る。	・基礎学力向上につながる授業実践	①「学びのポイント」を意識したワークするような授業づくりを実践する。 ②効果的にICTを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。話し合い活動の充実を図り、ICTの各種機能を積極的に取り入れた授業を実践していく。 ③漢字や算数の技能定着に向け、漢字・計算ドリル活用、ICT活用方法の工夫、改善を図り、継続して取り組む。	①継続して、計画的に「学びのポイント」を意識した授業実践ができたか。 ②市学調生活習慣に関する調査「ICTを活用した学び」で、総合して肯定的な回答90%以上になったか。 ③継続した習熟を図る取組によって、国語・算数のまとめのテスト等で、基礎・基本となる項目において正答率の全校平均を上げることができたか。	・各授業において、それぞれの特性等を生かしながら、学びのポイントを意識した授業に取り組むことができた。特に、地域人材、各種団体組織、企業や行政派遣事業等多様な学びにつながる実践ができた。 ・市学調生活習慣に関する調査「ICTを活用した学び」では、総合して約90%の肯定的回答を得た。 ・基礎・基本となる項目の正答率は、おおむね達成はしている。	B	・学年の実態に応じてさらに幅広く、継続していくつながりも踏まえて取り組んでいくようにする。 ・項目によってばらつきがあり、項目の高い数値によって率が上がっていることもある。 ・少人数では、個人差が大きく平均が一人の状況で大きく変化するため、全体として測るのは難しい。	・授業参観をしてみて、一生懸命に学ぶ児童の姿と、一生懸命に教える先生方の指導の様子が印象的である。 ・子どもたちが楽しく学んでいる様子が見られる。 ・体験学習を積極的に取り入れていて良い。 ・ICTの利活用のよさと、鉛筆と紙で体感する学びのよさの両方を生かしてほしい。
		・体力向上につながる授業、体育的活動の実践	①授業公開や、体育主任を中心に授業づくりの情報提供や研修等を行い、各学年の体育授業の充実を図る。 ②体力アップキャンペーンを定期的に計画し、効果的に実施する。食育も関連付けながら健康、安全の意識を高め、運動の生活化へつなげていく。	①運動量を確実に確保し、運動の楽しさ、心地よさが実感できる授業実践が計画的、継続的に実施できたか。 ②体力向上の取組（体力アップキャンペーン等）を計画的に実施し、運動するよさを理解し、生活化への意識を高めることができたか。	・学年、学級の子どもたちの実態に応じた体育授業実践が計画的に進められ、運動の楽しさを味わいながら生き生きと活動する姿がたくさん見られた。 ・ドッジボール、なわとび、持久走など、運動朝会やキャンペーンなどを計画的に行い、体力向上に向けた取組ができた。	A	・その時々運動に対する取組だけではなく、運動の楽しさや心地よさを継続して味わわせる実践を、計画的に進めていく必要がある。 ・生活化につながる取組を工夫改善しながら、キャンペーン等も含めて計画し、実践を重ねていく。	
2	＜現状＞ ○市学調生活習慣に関する調査「学校に行くのは楽しい」の項目において、学校全体で90%以上の児童が肯定的な回答をしている。 ○毎月末の生徒指導委員会や、必要に応じた会議等で情報共有、支援策を確認している。様々な不安などを抱えている児童や家庭などに対し、学校の組織的な対応が実施されている。 ○様々な施設・設備の修繕したい箇所がある。 ＜課題＞ ○不安を抱えていたり、自信が持てなかったりする自己肯定感の低い傾向にある児童への組織的なフォロー体制の充実を図る。 ○下校時のトラブルや、登下校時における安全確保（交通安全・不審者対応）等の課題がある。児童一人ひとりが安全への意識を高め、実践できる力を付けていく必要がある。	・個に応じたきめ細やかな支援の組織体制の充実	①報告、連絡、相談、見届けの徹底、情報共有、共通理解、共通行動を組織的に行う。専門職につなぎ、迅速、誠実、アフターケアで丁寧な対応に努め、フォロー体制を整える。 ②スクールダッシュボード等も有効活用し、現状把握、課題等の早期発見、早期対応に努める。	①児童、保護者の学校に対するアンケートにおいて、「学校が楽しい」に関連する項目において、肯定的な回答が90%以上になったか。 ②早期発見、迅速な対応を組織的にを行い、報・連・相・見届けが徹底されているか。	・学校に対するアンケートにおいて、「学校が楽しい」に関連する項目において、児童、保護者の肯定的な回答が90%となった。 ・日常の観察、定期的なアンケートやスクールダッシュボードの活用によって、早期発見、情報共有により、組織的な早期対応につなげることができた。報告、連絡、相談、見届けを徹底することができた。	A	・学校が楽しいと思える根本的な所では、ただ何となく楽しいのではなく、学びの楽しさ、友だちや教職員、地域の方々などの様々な人とかかわるよさ、学校行事等が充実していることを実感できるようにする。 ・子どもの様子を複数の目でしっかり見ていく対応は必要不可欠である。	・さいたま市「心と生活のアンケート」の取組や、学校としての児童面談週間の取組は素晴らしい。 ・学校評価児童アンケートの結果から、相談ができないと回答する子の割合がやや高くなっているため、相談しやすい環境、体制づくり等の対策を講じていくとよい。 ・学校は、子どもたちに対してとても手厚く対応してくれている。
		・安全な教育環境の整備 ・安全教育における児童の意識向上	①施設・設備のこまめな点検、日常の保健衛生、給食等における安全管理を徹底し、重大事故未然防止に努め、危機管理体制を整える。 ②学校、保護者、地域と連携を図り、安全教育に継続して取り組む。交通ルール順守等を中心に据え、日頃の生活と結び付けながら、児童の安全に対する意識を高め、実践できるようにする。	①定期点検や、日々の安全点検等を確実に実施し、早期対応に努め、未然防止につなげることができたか。 ②学校評価「学校は安全についての指導をよく行っている」項目で肯定的な評価80%以上となったか。	・危険箇所の改善に努め、樹木伐採、剪定等により、明るく見通しのよい環境整備ができた。安全点検後に報告があった際には、早急に対応することができた。 ・学校評価「学校は安全についての指導をよく行っている」項目で肯定的な評価94%となった。安全教育、指導については、交通事故防止の徹底を中心に、日頃より継続して行い、意識を高める取組ができた。	A	・学校でできることには限界があり、委員会を含め、必要に応じて地域への協力を得ていかなければならないこともある。 ・今後ますます交通事情は変わってくることが予想され、前例のない事故等の心配もあり得ることから、より一層の安全指導、安全教育等により、安全に対する意識を高めていく。	
3	＜現状＞ ○教育活動における保護者や地域の方が参加する機会が増え、また、家庭や地域に教育活動の様子等の情報発信機会も増えている。 ○地域のお祭り「地域ふあひサロン」や、PTA主催の「かしわっ子フェスティバル」が実施され、みんなが楽しめるイベントができた。 ＜課題＞ ○教育活動を積極的に公開し、学校Webページ等で、児童の活動の様子を積極的に発信する。 ○コミュニティ・スクール等で学校、地域一体活動発展のため、学校運営協議会の充実を図る。	・児童の愛校心や地域への愛着心が高まる取組の充実	①コミュニティ・スクールにおいて、学校・地域への愛着が高まる取組、地域のよさを生かした取組の推進と、地域一体連携事業の発展に努める。 ②学校運営協議会を充実させ、情報共有、情報発信に努める。	①地域一体連携事業が年間2回以上実施できたか。 ②学校運営協議会等において、情報交換等をその都度行い、熟議等を通して連携を図って進めることができたか。	・夏季休業中の環境整備活動、1月実施の「かしわっ子フェスティバル」など、地域連携事業が開催できた。 ・年3回の学校運営協議会の実施により、学校、地域に愛着がもてる子どもたちの育成について熟議し、各方面で連携が図れてきた。	A	・かしわっ子フェスティバルの開催は大盛況で、内容も充実し、保護者、地域の協力の幅も広がってきただけに、今後継続し、この地域のつながりをさらに広げて、強くしていく工夫、改善が必至である。	・先生方や地域の方々に感謝している。保護者の目が子どもたちに向いてきていて、協力してくれる保護者も増えてきている。PTAとして、いろいろな情報を発信していきたい。 ・学校の情報発信として、「かしわっ子発表会」や、複数回授業参観を実施していることは、効果的である。
		・教育活動の公開、学校Webページの充実	①保護者、地域の方の学校行事等への参加、参画の工夫・改善を図りながら実施できるようにする。 ②学校だより等や学校Webページを活用し、教育活動の情報や時期相応の児童の活動等について、積極的に発信していく	①学校行事等について、工夫改善が図られ、年間の予定が計画通り実施できたか。 ②学校だより等や学校Webページが活用され、児童の活動の様子などが定期的に、時期相応に情報発信できたか。	・運動会、授業参観、かしわっ子発表会など、保護者や地域の方々に参加できる学校行事等は、工夫改善を図りながらほぼ計画通り実施できた。 ・毎月の学校、学年だより等で、子どもたちの活動の様子や学校情報を発信することができた。	B	・授業日数205日の縛りがなくなり、よりカリキュラムマネジメントが重要になってくる。学習の幅を広げながら、学校行事等の工夫、活動の様子がさらに公開できるよう努めていく。情報発信についても、Webページの充実を図っていく。	
4	＜現状＞ ○ICTを活用した学習スタイルの授業が実践され、様々な方法で取り組み、学校全体で多様な授業の展開ができるようになってきている。 ○教職員それぞれが、専門、得意分野で力を発揮できるような教科担任制等の取組が効果的に機能することも増えてきた。 ＜課題＞ ○学習スタイルの開発を進め、試行錯誤過程で停滞したり、思うように進まなかったりして、本来のやるべきことが曖昧になることがある。 ○小規模校で、少人数で業務遂行していくため、個人に業務が偏らないように調整していく。	・教職員の資質と指導力向上	①専門、得意分野における授業公開や実践報告などを通して、学校全体への活性化を図る。効果的なICT活用の新たな実践等は研修等で情報の共有を図る。	①専門、得意分野等において、効果的なICT活用を含めた授業実践を行えたか。また、情報交換を行いながら学校全体に共有できたか。	・学校課題研究における個人、グループ研修により、専門、得意分野等を中心にICTの有効活用を含め、授業実践を進めることができた。情報交換を行いながら学校全体に共有していく。	B	・個人のテーマをもとに計画的に研修が進められるよさがある一方、情報共有だけで終わってしまわないようにすることや、偏らずに他教科への幅を広げていく必要がある。 ・少ない人数での分担となるため、多少の偏りが出てしまうところは、お互い様の精神でフォローし合っていく。 ・幅広く研修会や他校の発表に参加してほしいと思う一方で、不在補充や旅費の面で苦慮することもある。計画的に進めていく必要がある。	・先生方が、学校課題研究として、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」に向けて、グループで主体的に授業研究を進めていることが素晴らしい。
		・資質向上につながる働き方改革	②業務が偏らないように、分担や学校全体のフォロー体制で調整を図り、デジタル化やペーパーレス化等を推進して量的改善や質的改善に努める。 ③自己研修に積極的に取り組み、学んだことを生かすとともに、他の教職員に情報発信し、学校の教育活動の活性化を図る。	②自分に適した業務改善に積極的に取り組み、他の取組等を参考にしながら、必要に応じて取り入れるなどして、目標達成の実感につなげられたか。 ③自己研修に積極的に取り組み、情報発信し、学校の教育活動に貢献できたか。	・業務の大きな偏りが発生しないように、学校全体でフォローしていく体制づくりができている。業務の優先順を考えながら量的改善だけではなく、質的改善も図られてきた。 ・校内での研修だけではなく、外部の研修会や研究発表会に積極的に参加できる機会を増やし、自己研修を深めていくことができた。			